

宮池 (みやいけ)

位置図



諸元

貯水量	532	千m ³
満水面積	15.4	ha
受益面積	107	ha
堤高	9.4	m
堤長	707	m

宮池は、さぬき市長尾名の東の境、県道三木・寒川線（279号線）の北側に位置しており、宇佐八幡神社の正面にあることから八幡池とも言われています。築造は正平19年（1364年）四国の管領細川頼之が、東讃六郡の農民に宝蔵院の寺社領用水のため、1ヶ月余りで作らせたと言われています。1755年、1852年、1854年、1870年と大正末期には、堤防補強と貯水量の増加を図るため、数年にわたり漸次改築工事を行ったと言われております。

数ある言い伝えには、「宮池に住んでいた蛇が、宝蔵院の清滝権現の社殿の下から阿波に通じる穴を通過して、阿波へ嫁入りして子供を生んだ」という話や「亀島に“蛇の池”という池があり、そのかたわらにしんが空洞になっている大松があり、蛇が池の中からその空洞を通じて松に登って、池の水面を鏡にして化粧したので、この松を化粧松と呼んだ」などの話があります。

また、周りの山々と織りなす景観が美しいことから、県立公園に指定されており、亀鶴公園として、市営野球場・さぬき市長尾総合運動公園が隣接して整備されています。池の中ほどには、亀の形に見える亀島が浮かんでおり、両側に桜並木のある長堤と南側のさくら橋から巡回することができます。

4月には約200本の桜による宇佐神社の鎮花祭が、6月には25,000株の菖蒲によるショウブまつりが開催されており、県民の憩いの場になっています。



ショウブまつり 6月第1、第2日曜日



鎮花祭 4月第1日曜日